

刑務所などの矯正施設では、長年に渡って、収容された人たちのためのラジオ番組が制作・放送されてきました。最近では、施設の内部に留まらず、コミュニティ FM 局を通じて地域の人々も聴くことができる形で番組を放送し、塙の中と外をつなごうとする試みもみられるようになりました。こうした実践は海外でも見られ、イギリスでは受刑者による受刑者のためのラジオ局が、全国 100 か所以上の刑務所に向けて 24 時間 365 日、番組を放送しています。日英の実践から、受刑者のエンパワメントと社会への再統合に向けた一助として、ラジオの持つ可能性を考えます。

2024年2月10日(土)

14時～16時30分(受付13時30分～)

名古屋大学野依記念学術交流館

参加方法：対面、後日オンデマンド配信

参加費：無料



刑務所ラジオの現在

社会的包摂を目指すケアのコミュニケーション

■第1部 (14時～)

受刑者によるラジオ制作の意義—英国の実践から※通訳あり

講師：Dr. Ruth Armstrong

英国の刑務所で、受刑者による受刑者のためのラジオ局を運営する「Prison Radio Association」において、アドバイザーを務める。世界 10 カ国以上の刑務所ラジオ制作者が参加する「Prison Radio International」を主導し、国際的なネットワークの構築に取り組む。ケンブリッジ大学で博士号（犯罪学）取得。

■第2部 (15時15分～)

中島学氏（元札幌矯正管区長、福山大学心理学科教授）

「矯正教育のこれから—対話を通じた「ことばの形成」に着目して」

芳賀美幸氏（名古屋大学情報学研究科博士前期課程）

「塙の中と外をつなぐメディア実践の概況」

クマさん（元受刑者、ラジオフューズ「刑務所ラジオ」パーソナリティ）

「出所後の生活を楽しむためのラジオ制作」

パネルディスカッション

■申し込み方法

参加申し込みフォーム（QRコード）、またはメールにて受付。

MAIL：keimusho.radio.kenkyu@gmail.com

参加登録者を対象に後日、オンデマンド配信（終了後、配信準備ができ次第お知らせします）

（主催）刑務所ラジオ研究会、名古屋大学大学院情報学研究科小川明子研究室

（共催）名古屋大学大学院情報学研究科

このシンポジウムは、放送文化基金（2023年度）の助成を受けています。

